

笑楽幸

土佐清水市立清水小学校
校長室便り 令和3年6月17日

いつまで梅雨？

今年の四国地方の梅雨入りは、5月15日頃でずいぶん早かったですが、昨日関東甲信地方が、梅雨入りとなりました。四国地方より約1ヶ月ほど遅くの梅雨入りでしたが、ここ10年で一番遅い梅雨入りとなったようです。

早いかなと思えば、遅いところもありますが梅雨明けは平年通りなのでしょう。だとすると四国地方の梅雨明けは7月17日頃（昨年7月29日）ですが、梅雨の季節の長いのは避けてほしいものです。

さて、小学校ではプールが始まっています。子ども達の伝説になっている『地獄のシャワー』。1年生は、何も知らないのにお兄ちゃんやお姉ちゃんに聞くのか、『地獄のシャワーや…』と言っている姿を見てなんだかおかしく感じてしまいます。

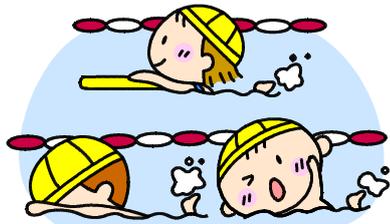
ちなみにシャワーから出てくる水が、ずいぶん冷たく感じるので『地獄のシャワー』と呼ばれているようですが、低学年にとっては、上からだけでなく横からも飛び出てくるシャワーが、直接顔に当たることから少し恐怖を感じているところもあるようで『地獄のシャワー』と言われることもあります。

プールのことを話のきっかけにしましたが、今回お伝えしたいことは、**【持ち物に名前を書いて下さい。】**とすることです。一昨日のことです。「落とし物なのに落とし主が現れません。」と職員室に持ち込まれたものがあります。

1つはゴーグルです。そしてもう一つは児童の下着です。（下着？）着替えに持って来たのか、はたまたプールの後、履かずにいるのか？といろいろ考えましたが、ビニール袋にきちんとたたまれて入れられていたことから考えると、保護者の方が着替えの準備をして入れたものだと思います。

それにしても落とし物は誰のものでしょうか？各学級で聞いてもらいましたが、一向に落とし主は現れませんでした。もしかしたら本人は入っていることを忘れてしまっているのか、それともお家の人が準備してくれていることを知らなかったのかもしれませんが。

修学旅行でもよくあることですが、自分で準備をしないので、持っていることさえ知らない児童がいます。保護者としては子どものためにと考えているのかも知れませんが、子どもの自立にはなっていないような気がします。ぜひ同じ繰り返しをしないように、これまでもお伝えしてきましたが、しっかりと判断ができるまでは、自分の持ち物に名前を書くことをお願いします。



職員室前の台の上に落とし物がなくなる日を心待ちにしています。

難しい年頃ですが向き合い続ける

私自身、自分の子どもはすでに30歳近くなっているの、小学生頃から考えるともう20年近く子育てからは離れていますが、思い起こしてみると決して十分な子育てができていたとは言えません。

それでも「ダメなことはダメ」と人として生きるために大切なことを伝えてきたつもりですが…、保護者のみなさんは、どのように子どもと向き合っているのでしょうか。

前回の道徳の続きになりますが、子どもの頃という自分の価値観が一番です。では自分が一番なので一人でいいかと言うことになると、一人になることが苦手で、一人になることを嫌がり、ついつい友達と同じであったり、周りに流されてしまうことが多くあります。

自分が小学生の頃は、先生に怒鳴られることがありました。もちろん悪いことをしていたからですし、自分でも分かっていた。でも怒られたからと言って先生に対して、偉そうにすることはありませんでした。

その時代がいいとは言いません。今の子ども達は、自己主張もするし、きちんと考えを持っている児童もたくさんいます。そういう面で見ると、昔の子ども達より今の子ども達はずいぶん成長しているのかも知れませんが…それでも人としての心は今も昔も変わってはいけなことがあると思います。それは【人を敬う心】【素直な心】です。

1学期の後半になりました。実質は夏休みまであと1ヶ月ほどですが、落ち着いて学習できている人が多い中で、自分勝手にルールを解釈して生活している高学年の児童が多く見られます。先生からの注意や指示もきちんと聞けない児童がいるのも事実です。児童が悪いわけでもありませんし、先生の指導が悪いわけでもありません。大事なことは、先にも述べましたが、【人を敬う心】と【素直な心】です。

人だからお互い間違いもあるし、不十分なところもありますが、しっかり向き合い、これからのことを考えることがとても大切です。

あるお寺のお坊さんが「下ばかり向いていたら、どこにいても見えるのは同じ土や地面ばかりでつまらないけど、前や上を向いて歩けば、たくさんの景色が見られ、ワクワクして面白くなる。どう歩くかは自分で決めること。出来事を楽しいものにするか、つまらないものにするかは自分で決めること。」と言っていました。『「嫌なことから顔（面）をそむける、又は嫌なことだと下を向く。そうすると顔が倒れて「面倒」になる。逆に、顔を上げると光が顔に当たり白く輝く。そうすると「面白い」になる。』とも言っていました。

確かに人の話を聞くとき、顔を上げるか下を向くかによって気持ちも違ってきます。

子どもの言いなりになることは、決して子どもにとっていい成長、自立には繋がりません。

学校では、子どもの未来のためにしっかり向かい合い取り組んでいきたいと思えます。

保護者のみなさんも一緒に子ども達と向き合い考えていただければと思います。